

令和 7 年度第 1 回学校運営協議会議事録

令和 7 年 5 月 23 日（金）

記録者 吉田 新一

1 開催日時 令和 7 年 5 月 15 日（木）14:30～16:20

2 開催場所 岩手県立大東高等学校 会議室

3 出席者

菅野 佳弘様 摺沢市民センター所長

小原 玉義様 小原書店

菅原 正浩様 一関市立大東中学校長

菊池 亮様 （有）古鼎堂 代表取締役

小島 誉洋様 トータルインテリア創美 代表

小野寺一喜様 一関市社会福祉協議会大東支部 主幹

佐藤 柊平様 一般社団法人いわて圏代表理事

大石 敦子 校長 吉田新一 副校長 木村 和明 教務主任

澁谷 仁 情報ビジネス科主任

（吉田義紀事務長、武田宏行総務主任 オブザーバー参加）

4 校長挨拶

- ・ 1 か月半が経過したが、今年度新入生 30 名、生徒総数 132 名でスタート。学習活動・部活動等ここまで大きな事故等なく順調である。
- ・ 部活動が任意加入である中、他競技への加入や地域活動を理由に未加入のケースはあるものの、新入生の多くが加入した。昨年部員ゼロだった部への加入もある。良い活動が期待される。
- ・ 今年度 9 名の教職員とかがやき支援員 1 名が着任した。支援が必要な生徒への目配りができている。
- ・ 壮行式を終え、間もなく県高総体が県内で始まる。3 月にソフトボール部が千厩高校との合同で東日本大会に出場して関東の強豪校に 1 勝した。また、春季陸上大会の女子やり投で県優勝するなど、高総体も期待したい。
- ・ 生徒の服装について、衛生面や暑さ対策のため、制服・ポロシャツのほかに希望者には T シャツを購入できるように検討している。色は 2 色を予定。
- ・ 昨年度の本協議会でも話題になったが、今年度、大東中学校様の協力を得て、大東高校生が中学校に赴いて高校について紹介したり、部活動の実演をしたりしようと考えている。生徒会執行部の生徒が中心で 6 月下旬に実施する予定。
- ・ 令和 8 年 10 月 10 日に創立 100 周年記念式典を予定。県教委と共催、記念講演会等を

実施したい。

- ・学校運営について、生徒たちが充実した学び、仲間とともに切磋琢磨して自分らしい進路選択ができ、笑顔で学校生活を送ることができるよう、より良い学校運営と学校づくりのために多角的多面的に委員の皆様からご意見等をいただきたい。

5 学校概要説明（資料で事務局が説明、委員からの質問はなし）

6 協議

（１）本協議会の設置目的及び活動概況について

（資料で事務局が説明、委員からの質問なし）

- ① 学校運営協議会の設置等に係る規則についての確認
- ② 本校における設置目的等 ③ 本校の外部機関との連携事業 ④ 活動概要

（２）役員選出

会長に菅野 佳弘 氏、副会長に小原 玉義 氏を選出。

（次の協議事項より、進行を会長が務める）

（３）令和7年度 学校経営計画について（書面により議決済み）

（校長より説明）

大きな変更はないが、重点目標エ「学校いじめ組織の取り組みを中核としたいじめ未然防止と適切な対処」の達成指標を「心身の悩みの相談への対応に満足していると感じている生徒の割合（80%以上）」とした。

（B 委員から質問）

いじめの認知件数はどれくらいか。

（校長）

認知は1件。小さなことから積極的に認知しようと、双方から丁寧に聴き取りし、保護者とも連携して対処するとともに、認知して指導にあたっている。重大事態に発展した案件はない。

（B 委員）

中学校でも相手が嫌な思いをした場合はいじめと認知して早期に解消するよう、対応している。初期対応がうまくいかないとこじれるケースあり。アンケートを大切にしている。報道では件数のみが報道されて学校はいじめが多い印象になっているが、積極的に認知をして早いうちに対処している現れであることを知っていただきたい。SNSでのトラブルもある。

（委員長）

（いじめは）どちらが加害者か被害者か分からない場合もあるのではないか。

（委員長）

立川で保護者とその関係者が学校に侵入した事件があった。類似のケースはあるか。

(校長)

保護者ではないが、昨年、不審者が朝に侵入した事案があり、警察にも通報した。

(D 委員)

小学校でも侵入事件があった。

(校長)

何かあったら生徒の安全を第一に確保し、警察にも通報するなど対処する。

(4) 令和7年度学校行事について(事務局より説明、質問なし)

(校長)

大東図書館の移動車「なぎさ号」の新車に伴い、デザインを現3年生の美術部員が手がけた。近々出発式を行い、6月下旬に全校生徒にもお披露目をする予定。

(A 委員)

「なのはなプラザ」で実施した販売を他の会場で、という話があったように思うが、Djobではどのように計画しているのか。

(G 委員)

昨年度は情報ビジネス科の生徒数が「なのはなプラザ」で実施できる人数を何とか確保できたが、それでも生徒は一人何役もこなさなければならなかった。「なのはなプラザ」で実施する時期は3年生が抜けてしまう。今年度は1年生がわずか3名であり、かつ1・2年生のみでの対応となると生徒の負担が極めて大きくなり、実施が困難な状況である。今年度は3年生も関われる琢磨祭のみで計画したい。

(F 委員)

道の駅だいがうが開業したが、学校行事などのポスターの掲示や職場体験等で協力できればと思っているので活用して欲しい。

(5) その他

① 「大東高校 note」への記事の投稿について(資料で説明、質問なし)

② 各委員から

(C 委員)

構想段階ではあるが、四ツ角商店街を残す方向で考えている。お盆のあんどん祭りの時イベントをしたい。夜店などを開く場合、高校生のボランティアを募集したいと思うが、可能か。夕刻から19～20時頃まで。高校生が販売したいなど出店やお手伝いなどをしてもらえればと考えている。

(校長)

休みなどでボランティアをすることを奨励している。声掛けは大いに。

(A 委員)

高校生企画のイベントがあってもいいのではないかな。

(C 委員)

イベントを企画して、テントなど物品が必要であれば貸し出すことも考えたい。他の

ボランティアもあるだろうから高校生の負担にならない範囲で、と考えている。

(委員長)

社会のルールと法的・制度的ルールの中でちょうどいいところで考えを整理して行動することが不得手になっていないか、大卒で就職はしたが、出勤時間ぎりぎりに来て、先輩が先に来て掃除していても拘束時間ではないことを理由に手伝わることがない。結果、馴染めず職を離れることになる。こうしたことを学ぶ上でボランティア活動は大切ではないか。

(校長)

ボランティアで気付きや発見があることが進路活動に繋がるので、学校の学びだけではなく積極的にやって欲しい。

(委員長)

「生きる力」になるのではないかな？

(C 委員)

ボランティアに対するお礼について、売れ残った商品を渡すことは可能かな？

(校長)

時給いくらとなれば、アルバイトになるのでルールがあるが、謝礼程度であれば問題ない。

(A 委員)

実際に野球部ボランティアや鹿踊部演舞に謝礼をしたことがある。

(委員長から D 委員に対して)

雇用する立場として、経験したことで何か教えられることはないかな。

(D 委員)

職人の世界は、作業時間は何時から何時までと言われ、その時間しか働こうとしない若者は成長しないが、勤務時間を過ぎても残って学ぼうとする者は出世するし、叱られても翌日めげずに働きに来るようだといいが、滅多にいない。むしろ、次の日(仕事を)辞めると、本人ではなく家族から連絡が来るケースが多い。他の事業所では退職代行の場合すらあるという。

(委員長)

実際、以前に退職代行を使われたことがある。

(D 委員)

この地域でも介護や建設業などは実際に多くあると聞く。また、現場での声を聞くとベテランの人はその若者が続くかどうか見分けることができるらしい。また、コミュニケーション能力が圧倒的に不足しているという。メールや LINE の文章は立派だが、直接話してみると、その文章の 3 分の 1 も話せないケースが多い。DX 化と言うが、コミュニケーション能力のことを考えると、使い方が大事になってくる。

(F 委員)

就職希望の生徒に見られる傾向は？

(H 委員)

話題のことが苦勞し、直面していることである。入学後と 9 月にコミュニケーションスキルを高める訓練をしている。話してはいけないことをこらえるべきところで全て話してしまうなど、その場に応じたコミュニケーションが取れないケースがある。

(校長)

グループ内で人間関係づくりをするとか、声の掛け方やフォローの仕方とかを学ぶような取り組みをしている（3 年生になると良くなるが）。不登校傾向の子が増えており、学校での友人とのやりとりで学ぶこともあるが、その機会がないのもコミュニケーション力に影響していると思われる。また、ちょっとした友人関係の悪化で、突如、学校に来ることができなくなる事例もあった。こうしたことが今後増える傾向にあるのではないかと思われる。スマホの中の世界にのめり込むことで、自分をコントロールできなくなるのではないか、心配だ。

(A 委員)

スマホ認知（症）と言う話を聞いたことがある。情報過多で脳が処理し切れていない。小学生など早い時期からスマホの使いすぎで、脳に悪影響が出て、コミュニケーション能力の低下にその影響があるかもしれない。

(委員長から E 委員に対して)

町内では大きな事業所だと思うが、何かないか。

(E 委員)

多くの若年労働者を見ていると、SNS での情報伝達でコミュニケーションが取れていると思っている場合が多いように思う。また、見て覚えるとか察するとかという力はない。よって、コミュニケーション能力不足が原因となり、特に 3 年以内の離職率は高くなっているように思う。若年労働者には一から教えなければならない。不登校の傾向が一関地区でも増えているし、薬物使用のケースも管内では増えているようだ。スマホが原因で、情報を得やすい環境になっている。都会の話ではないようだ。興味本位で情報を収集しており、闇バイトと同じようである。スマホを使いこなすことと、PC を使いこなすことは全く別のことである。

(校長)

一人一台端末を利用した授業で、当初操作に苦勞して慣れるまでは授業に支障が出ることもあるようだ。

(B 委員)

学習内容ではなく、経験不足から「できないこと」が多いようだが、それを攻めるのではなく教えることが大事ではないか。コミュニケーションが取れない生徒が多いのも、その生徒が悪いのではなく、その生徒が育ってきた社会背景が原因なので、教えるようにしたい。不登校について、中学校も高校も何人か抱えているのが現状だ。

困るのは原因不明な不登校である。また、発達障害のある子どもも増えている。

7 その他（以下、資料で説明）

- ・ 今後の協議会について
- ・ 令和7年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム（地区別会場）について
- ・ 今後の県立学校に関する地域検討会について